

令和7年度第1回河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

日 時 令和7年8月26日（火）午後6時00分～7時40分
場 所 河内長野市役所301会議室
出席者 車谷委員長、寶楽副委員長、佐藤委員、宮崎委員、宮地委員、飯田委員、
おぐし委員、吉年委員、尾花委員、池内委員
(河内長野市) 水上室長、東課長、谷口課長補佐、西尾グループ長、玉置

開 会

(事務局)

定刻となりましたので、ただいまより河内長野市文化振興計画推進委員会を開会します。
開会にあたり成長戦略部まちのソフト戦略室長の水上より、一言ご挨拶を申し上げます。

(水上成長戦略部まちのソフト戦略室長)

本日は、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。また、平素は、河内長野市文化振興計画推進委員会をはじめ、市政各般に亘り、格別のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、今年度の本市の組織機構改革により、文化・国際・スポーツの分野が教育委員会から市長部局に所管が移り、成長戦略局・成長戦略部・まちのソフト戦略室・文化・スポーツ活性課が担当課となりました。

当委員会は、今回が今年度の最初になりますが、平成28年3月に策定した「第2期河内長野市文化振興計画」において、目標年次を平成37年度までの10年間としていたことから、委員の皆様には、当計画の見直し、策定について、お力添えをお願いします。

活発な議論のうえ、幅広いご意見をいただき、これから河内長野の文化振興、ひいては活力あるまちづくりに活かしていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

(事務局)

ありがとうございました。ここからの議事進行は車谷委員長にお願いします。

(車谷委員長)

それでは、会議の公開及びその方法について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

河内長野市附属機関等の設置、運営及び公開等に関する指針第11項に基づき、河内長野市で行われている会議は原則、公開となっており、第12項に「会議の公開又は非公開は、附属機関等の長が当該附属機関等にはかって決定する」とあります。

そこで、過去に開催した当委員会の会議でも公開としていたことから、引き続き、当委員

会は公開したいと思いますが、よろしいでしょうか。

また、同指針第13項に「会議の公開は、会議の傍聴を希望する者に、当該会議の傍聴を認めることにより行う」とありますので、傍聴に関して必要な事項を定めさせていただきたいと思います。併せてご審議をお願いします。

(車谷委員長)

今後、当委員会の会議を公開することにご異議ありませんか。意義なしと認め、当会議を公開とし傍聴を許可します。傍聴者がいましたら入室させてください。

(車谷委員長)

それでは、案件に移ります。案件1「第2期文化振興計画の進捗状況」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

第2期文化振興計画の進捗状況について、別紙資料のとおり説明。

(車谷委員長)

ただいま説明していただいた資料と、前回、前々回の会議録を、私なりにメモにまとめてみたので、こちらも参考にご意見をいただきたいと思います。例えば、この10年間の河内長野市が行ってきた文化活動を見ていく中で、良かったなと思う点を1つ、課題だと思う点を1つ、皆さんから聞かせていただきたいと思います。

(佐藤委員)

私自身は、河内長野のまちのことをあまり把握していないのですが、今日駅から歩いて来る中で、文化の深さを改めて感じました。写真家の方が、駅周辺の写真をSNSで配信されているのを見て、とてもかっこ良くて実際に見てきたのですが、旅館のところにかかる橋がとてもきれいで、地元の方には当たり前の風景も、外部から入って来ると秘境みたいなイメージを持つのではないかと思いました。YouTubeの「こんな秘境にまちがあった」みたいな河内長野の動画があると、良いのではないかと思いました。

(おぐし委員)

先日、河内長野でお店を出された橋本市の方を取材したのですが、なぜ河内長野を選ばれたか聞くと、その方は沖縄が好きだそうで、BEGINのコンサートが橋本市ではないけど、河内長野ではあるから選んだと話されていました。ラブリーホールでは、中堅クラスのアーティストさんの公演があるので、それは素晴らしいことだと思っています。河内長野は、大

阪の南部の重要な位置にあると思います。それから、他の周辺都市と比べて教育面でも、河内長野市は民度が高いと感じています。本当に上品な方が多くて、常識のある方が多いのですが、それは教育面がしっかりしているからだと思います。足りない点は、30代、40代の方向けの遊ぶところがないというところです。今、観心寺の横で旧松中亭という有名な旅館を改装して、30代の若者が1つのコミュニティをつくろうとがんばっています。そこに行くと、20代、30代のおしゃれなファミリーがたくさん来ていて、他の都市でもそのような若い人たちが楽しくワイワイしている場所を見ると、まちづくりの専門家ではないキーマンがいます。自分自分が好きなことをやって、それがそのまま楽しそうだからということで、周りに仲間がどんどん集まつくるような、そのenさんのような動きも出てきていますが、河内長野駅前の見えるところに、そのような場所がないのが1つ大きな課題かと思います。そのような人たちが自由に使える場所が、もっとあつたら良いと思います。

(吉年委員)

私は、良いところは人に尽きると思います。文化活動においても、興味があって、アンテナが出ていて、携わらせてください！会いたい！やりたい！こんなことをさせてほしい！とか、ええやん！という人しかいないまちは、河内長野しかないのではと思います。その反面、全部のパワーやエネルギーは点であって、線や面ではないです。自治体は自治体ですし、民間は民間ですし、各団体は団体で、有機的ではないです。それは、最近いろいろなコミュニティに顔を出させていただく中で、つくづく課題だと感じています。きっとこれは文化活動にも情報発信にもつながつくると思います。

(車谷委員長)

吉年委員は、今いろいろな活動をされていますね。人が良いというのは実感ですか。年代などはどうですか。

(吉年委員)

年代は関係なく、老若男女みんな人が良いです。赤ちゃんから、おじいちゃんおばあちゃんまで、人が良いです。

(車谷委員長)

何か背景があるのでしょうか。

(吉年委員)

私調べでは、おぐしさんと少し重なますが、とても民度が高いと思います。一定の余裕があって、本業ではない副業にきちんと精を出せる環境は必ずあると思います。その上で、

その文化・風土はしっかりと子まで、孫まで伝承されているので、秋祭りのあの良い感じにつながったのだと思います。それから、商店街に公園がありますが、本当にごみが落ちていたことがありません。驚きます。

(尾花委員)

河内長野は、市民の方が有志で、副業的に地域活動をされていて、非常に盛んだと感じます。毎月、何かしらのイベントがあつていて、行くと結構濃いイベントがたくさんあります。それを、自ら市民の方がやりたいと言っているのがすごいと思います。ただ、おっしゃるように開かれていない感じがとてもしていて、2017年から音楽活動をしていますが、河内長野市で活動していても業界が違うからか永遠に出会わない人がいるのです。福祉の動きをされている方々が、障がいのある方でも参加できるイベントとして、「みんなのマルシェ」というイベントをされていて、他にもいろいろなイベントを積極的にされていますが、ここにきてやっと福祉の方とつながって、一緒にイベントをやることが増えてきました。福祉以外にも、他業種の方でいろいろ活動されていますが、なかなか出会わないです。

先日、文化財を活用するワークショップを市役所でされていたので、参加したのですが、そこにも初めて出会う方がいました。だんじりで活動をされている方がほとんどでしたが、もっと地域で活動したいとか、このような活動があつたらいいのになど、話をされていました。それとはまた別で、20代30代の方を30人くらいを集めて交流会をしましたが、学校の先生や、まだ就職したてで地域のことは何にも知らないけど、やっと河内長野に興味を持ち始めたという方、こんなことしたら楽しいだろうけどどうしたらいいかわからないという方などいろいろな方がいて、この場で出会ってさよならではなく、継続的につながって意見を交換するようなことが、もっとできたらいいのではないかと思いました。

河内長野で活動するには、自分からコミュニティに首を突っ込んでいかないと活動しづらいので、他業種であつたり、20代30代であつたり、そのような開かれた場をもっとつくれて、発信して、受け入れ体制がつくれたらなと思います。せっかく、こんなに活動したい方が集まっているまちなのに、今は点で打ち上げ花火が上がっているような状態で、つながっていないのでどうにかできないだろうかと思います。

(飯田委員)

先ほどおっしゃっていた、点と線というのはすごくわかります。バラバラに活動はしているけど、それがつながっていないと感じます。年齢的なこともあるのかもしれません、文化連盟としては今までしていたことを続けるのが精いっぱいで、新しいことを提案しても「またね」という感じで流されてしまいます。それが、団体の問題点だと思います。若い方が活動される中で、こんなにちはさよならではなくて接点として、お互いに取り入れることができたら、もっと盛り上がるだろうと思います。

(車谷委員長)

文化連盟の状況として、前回もおっしゃっていましたが硬直化というか、若くて良い方があるのに入ってこないもどかしさがあるのでしょうか。

(飯田委員)

そうです。こちらとしては開いていないつもりはないのですが、周りから見ると孤立しているように見えるのかと思います。なかなか新しい風が通らないです。

(宮崎委員)

僕は、直接河内長野で活動はしていませんが、堺市に住んでいた時に近くで状況を見ていたのと、今は大阪アーツカウンシルとして河内長野の良い点・悪い点を改めて考えてみました。良い点として、ラブリーホールというのはすごく大きいと思います。河内長野だけでなく、南大阪の拠点となるような文化施設だと思っています。一流のものをつくって見せるということもそうですし、今やっているミュージカルスクールもそうですし、今年から復活した日本全国で知られるような市民オペラの先駆けとなるマイタウンオペラというのもそうですし、市民と一緒に文化拠点としてつくっていくところで、役割はものすごく果たしていて、その積み重ねが河内長野の文化度を高めて維持してきたと思います。そこは誇りに思うべきだと思っています。

悪い点として、これから先を見据えた中で言うと、ラブリーホールや文化財団さんは、自分たちの内側で、ハードの中でやることに関してはできていると思いますが、これから先どうするのかというところで、アウトリーチで子どもさんなどのところに出向いて見せるということはされていますが、文化芸術以外のセクターのところとどのように接点を持っていくのかとか、今日の資料の中に人口の流出や子育て世代の流入について書かれていますが、そういうところとどのようにタイアップしてやっていくのかとか、河内長野が持っている文化財や自然、里山などとどのように有機的に積み上げ、河内長野の魅力を見せていくのかとか、もう少し開いた視点みたいなものをラブリーホールや文化財団さんが持てると、次のフェーズにいくのではないかと思っています。

先ほど、いろいろな意見を聞いて思ったのが、新しい人たちの出会う場所がないということです。出会う場所は、例えば福祉だったり、まちづくりだったり、文化でもそういうことはできるのではと思います。僕は、他に茨城市とも関わっていますが、そこに「おにクリ」という文化施設があって、そこは中に図書館が入っていたり、子ども・子育て支援が入っていたり、カフェがあったりと、イベントがある時に行くところではなくて、いつでも誰かが行くところで、そこでたまたまコンサートがあり、リサイタルがあり、イベントがあるみたいに常に人が行き来していて、そこでいろいろな人たちが会って、いろいろな話があってという場所になっています。いきなりは変われなくても、いろいろな人たちがいつでも行っ

て出会える場所で、そこに役割として文化があるみたいな方向を目指すことを考えていくようになると、空き家対策にもつながるし、子育て世代の流入などにもつながってくると思います。そのような観点で、いろいろな施策と絡めていくとおもしろくなると思います。

(車谷委員長)

今のご意見のような、何か新しい発想はありますか。

(事務局)

これは本格的に考えなければいけないタイミングが必ずくるのですが、老朽化という問題と、他の子育て世代などいろいろな施設との統合という問題が、どこかで出てくると思います。文化は文化、ホールはホールではなくて、全てが包括されていて、そこに文化があり、ホールがあり、イベントがあるというように見ていかないと、文化だけで維持していくのは無理になると思います。それは大都市でも同じ問題を抱えています。ホールの立て直しというのは、前もって種を撒いておかないといけないと思います。

(池内委員)

小中学校の代表という私の立場としては、いつもありがとうございますという感謝ばかりです。9月3日にアウトリーチで、ピュアエンジェルさんによる女声アンサンブルが「やさしさにつつまれたなら」などすてきな歌声を発表してくださいます。昨年は、いつもの音楽の授業とは違うものを肌で感じ、子どもたちは前のめりの姿勢になっていました。小学校、中学校の子どもたちは、アウトリーチもそうですが、ふるさと学で勉強させてもらったり、電子図書館だったり、ミュージカルスクールに通っている話も聞いていますし、いろいろな部分で多種多様に子どもたちは利益を受けていると思います。子どもたちには、できるだけ多種多様なものに触れさせてあげたいなと思っています。学校内でも、ゲストティーチャーにインターネットの先生にきてもらうなど、こちらもチョイスする目をしっかりと持たなければいけませんが、子どもたちにはできるだけ機会を与えていきたいと思っています。

(宮地委員)

私は15年ぐらい、ラブリーホールで仕事をしていましたが、宮崎さんがおっしゃるように、ホールの中でやろうとしている活動についてはとてもがんばっていると思います。ただ、外になかなか出られないというのが課題だというのは在籍時代にも思っていて、何とか広げられないかといろいろやってみましたが、思い半ばで終わってしまい、その後寶楽さんががんばってくれて、とてもありがたいなと思いながら、結局すごく負担をかけてしまって、これからどうするかという課題はあると思います。

最近、私は堺市のアーツカウンシルとか、茨城の文化振興の補助金の審査委員など、他

市の文化政策の一端に携っていますが、その中で良いか悪いかは別にして、堺も茨城も小さい額ですが助成金を出していて、その助成金を出すことで文化関係の人たちがそこに応募してきて、我々が審査だけでなくいろいろお話しをして、そこでアーツカウンシルとして相談に乗ったり、アドバイスをしたりしています。舞台芸術だけでなく、街の小さなカフェで展覧会をしたいとか、子どもたちのワークショップをしたいとか、いろいろな人たちが応募したり、相談しに来てくれたりしています。堺はかなり大きいので全体を見ることはできていないと思いますが、少しずつそういう方が集まることで市民の方とつながっていて良いなと思っています。先ほど、宮崎さんも言っていましたが、ラブリーホールは文化振興財団が1つしかなくて、結局横のつながりがほとんどないので、例えば、ほかのセクションの方と、定期的にミーティングをする機会とか、雑談レベルでも良いと思いますが、文化というところをどこまで広げるかというところで、可能性はあると思います。ただ、本当に財団もですが、人的な部分や予算の余裕というのは非常に厳しいと思いますので、先ほど言われたような市民の方でいろいろやりたい方がいらっしゃるということであれば、なんとかそこと行政なり財団なりがつながっていく場所や、おしゃべりできる場所がつくれたら良いのではないかと思います。あとラブリーホールは、例えばミュージカルであろうが、オペラであろうが、音楽祭であろうが、関心を持つ人は市内だけではやはり限られていると思いますので、逆にその市内の方とつながりを持っていくのか、例えばミュージカルのコミュニティとしても少し外にその場所を求めていく、それが市とのつながりになるなどあっても良いのではないかと思います。特に市民ミュージカルは、いろいろな地域でやられているので、1つでも2つでも連携ができれば、また違う形の文化の交流など、何かできるのではないかthoughtもしています。

(賛楽委員)

良かった点は、この10年間で連携の質が変わったというのが、一番思っていることです。10年前の計画段階では、ラブリーホールが本物の体験ができる場所ということで、ミュージカルの話があったところに子どもを参画するミュージカルであるとか、2015年からサキタハヂメさんと、世界民族音楽祭というものから奥河内へとテーマを変えていくことで、森林組合と音楽であるとか、商店街と音楽であるとか、他ジャンルが連携したことに対して、文化と行政とまちの人が全力で協力したということは大きかったと思います。

課題については、まちの中で起きていることと、文化が連携していないことだと思います。少し補足すると、この10年間で、例えば社会福祉協議会がやっているこども食堂「ごはんやday」という活動は、もう4つ、5つと広がり、それから駅前に自分たちでファンドレイジングをして、フリースクールができたり、カフェができたり、数千万円の補助金を取ってきて自分たちでNPOとして活動する方もいるなど、民間が独自にファンドレイジングして資金調達して活動しているのですが、そういうことが一部を除いて行政とうまく連携でき

ておらず、そういうことも含めて文化が連携できれば良いのになと思います。先ほど、宮地さんから助成金制度があるという話がありましたが、これは今、進んでいる自治体では、社会課題に対して、文化がレギュラーアプローチに対してきちんと評価をし、そこが分野を超えたコーディネーション機能を果たすということを期待しつつ、行政だけでやっていても機能しないから、民間発想でできることに対して補助金を出すことで、広がりをつくっていると思います。河内長野は、文化に参画する活動人口、関係人口そのものはすごく多いと思います。この振興計画の座組を見ても、やはりプレイヤーは多様だと思います。この関係人口の質の高さを、次にどう社会課題に結び付けるのかがポイントだと思います。

(車谷委員長)

たくさんのご意見をいただき総括すると、河内長野市の中にこの10年間で、いろいろな人が育ってきているということでした。それから、施設としてのラブリーホールのあり方についていろいろな問題点は指摘されていますが、ここで接点があつたり育つたりしている人が出ているということは、ラブリーホールは一定河内長野市にとって大きな文化的な役割を果たしてきたということは、どの方も共通して言えることだと思います。

ただ、寶楽さんが最後にまとめてくださいましたが、具体的にこれからどんな方向に向けていくのかというところに大きな課題があるし、宮地さんがおっしゃったように施設の人員などいろいろな面から考えていくともう限界も来ているので、手法的なことも含めていろいろ考えていく必要があるということです。それからもう1点は、我々の知らないところで若い人、30代40代の人が、いろいろなことを自力で始めていて、そこに少しずつ人が集まってきていて、そのような風土、地盤があって、脈々とつながってきているのではないかと思います。これをどのようにつないでいくかが、本当に大事な役割ではないかと思います。次の10年間の計画の中に、今おっしゃっていただいたことをベースにしながら、それをどのようにつないでいくのか、どのように発展させていくのかを考えいく必要があると思います。言い切れないことが、まだまだたくさんあると思いますが、河内長野型ということが、固有名詞を使ってこの前は2期の計画を作つておられたが、まさに河内長野型なのかもわかりません。

(吉年委員)

皆さんのご意見は、おっしゃる通りだとすごく思いました。例えば、最近、東京オリンピックの時に選ばれた現代アーティストの方が、興味を持って見に来られたのですが、その方が言っていたのが、「あの商店街は、私たちがどれだけエイジング加工をしてもつくれない」ということで、私は地権者といろいろコミュニケーションを取りながらまちづくりをしているので、「まあ、使えるところもあると思うよ」という話をしたのですが、「そんな寛容なまちは今までになかった」とのことでした。要するに、頭を下げて「この廃屋を使わせてくだ

さい」と言っても、「いや、そんなの無理だ」と言わされてきたそうで、「なんでこんなにみんな温かくて、おもしろいって言ってくれるんだ」と言わされていました。でも、今、宮崎さんの話を聞いて、僕はそのアーティストさんと話をした時に、ラブリーホールのことは全然何も思い付かなかったなと思いました。ラブリーホールはラブリーホールというインプットでしかなったのですが、でも文化振興財団は別にそれもできますよね。もちろん既存事業のリソースでいっぱいということはあるかもしれないですが、別に前向きにやれば、何かをすごく建設的、効率的にすればいいけるかもしれませんし、何かをダイエットすれば良いのかもしれませんし、やはりアートや文化に携わる時に、ラブリーホールが第一想起されるような施設になれば、それが今の需要にも乗っかるのだと思いますし、文化は文化、他は他みたいに今の社会の時流はボーダレス過ぎるので、そこはきっと次の計画にも付与したり示唆したりしないといけない視座なのだろうと思いました。

(車谷委員長)

点で今動き始めている部分を、おっしゃるようにつないでいく必要があって、誰がつなぐのか、どこでつなぐのかというような手法というか方法が、新たに必要だと思います。

(宮崎委員)

今のご意見で、誰がつなぐかというところで、文化振興財団がとかラブリーホールがという話が出たのですが、昨今のトレンドとしてはアーツカウンシルとか、中間支援と呼ばれるもので、大体公設の財団の中に入っているのですが、今までホールの維持管理だったり、運営だったり、ソフト事業など中でやるものをつくるだけだったのですが、文化政策の流れ的に市民のアーティストだったり、市民だったり、民間団体などがどのように活発に地域の中で活動できるか、そのためにどのような支援ができるのかみたいなことを、財団の中でやるということも増えてきているので、人員と予算のことなどいろいろクリアしなければならないこともあるのですが、1つ何か今後のことを考える上で参考になるかと思いました。

(車谷委員長)

具体的には、そのような方策というのはなかなか出てこないかもしれません、方向性というの、今皆さんおっしゃったように、人をどうつないでいくのか、どう育てていくのかなど、その辺がまた新たなラブリーホールの役割かもしれませんし、また違う組織、違う手法があるかもしれません。どのような形で新たな次の計画に入していくのかについては、もう少し揉まないとなかなか具体的なものは出てこないと思います。それでは、1時間ほど経ちましたので、追加意見がありましたらメールで、このような方法、このような考えがありますとご提案していただきたいと思います。

(事務局)

今の案件は、第2期文化振興計画の進行管理上での評価についてでしたので、今回いただいた意見、それから委員長がまとめていただいたコメントも踏まえて、この方向で総括の案をこちらの方でつくって提案させていただくということで、いかがでしょうか。

(車谷委員長)

課長がまとめたように、今出た意見をもとに総括的な案を事務局の方でつくるということですね。

(事務局)

はい。この文化振興計画の評価は2年に1回行いますが、それに加えて今回は最終ということがありますので、定量評価というところも踏まえた上で、皆さんからのコメントテキスト、状況感想的な評価も合わせて最終的な評価とさせていただければと思います。

(車谷院長)

前回、前々回の意見の中にも、評価の仕方についてはかなり意見が出ていました。数量的な評価であるとか、集まった人数であるとか、もう少し具体的なものを入れないと判断ができないという声もありましたので、今までのような形で事務局にまとめていただいてよろしいですか。最終的なものは、次回提示していただけますか。

(事務局)

計画の総括になると、7年度が終わっての総括となります、8年度に総括していたのでは遅いので、次回が最終的な形にさせていただきたいと思います。

(賛楽委員)

前期の論点としてはコーディネーションというのが結構触れていたところで、評価指標のところではずっと調査中で終わって、それは行政的には調査でいいのですが、例えば市民側では、吉年さんとかおぐしさんとか尾花さんなどのプレイヤーが出てきたということは、ある意味民間セクターの方で、コーディネーターが育ったことがあると思います。行政ができなかつたで良いのですが、一方でまちのプレイヤーが元気だったからうまくいったという点を盛り込んでもらいたいと思います。

(事務局)

確かに、一覧表の2ページの一番上にあるコーディネーターというこの項目だけが、ずっと検討ということで据え置かれている唯一の事業で、できていない事業になります。これは、

第2期の総括の中では検討という評価ですが、今からの第3期の議論の中で話していくことになると思います。

(車谷委員長)

その辺りも必ず含めていただきたいと思います。よろしくお願ひします。それでは、案件「(2) 第3期文化振興計画の骨子案について」に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

案件2

第3期文化振興計画の素案について

(事務局)

別紙資料のとおり説明。

(車谷委員長)

今の説明にあったように、第2期の基本的な方針は継続していきたいということでしたが、継続ということについて何かご意見はありますか。

(委員)

38ページの「文化振興の方向性」を踏襲するのですか。それとも、課題設定を踏襲するのですか。

(事務局)

踏襲しているのは、34ページからの目標1、2及び35ページの方針1, 2, 3, 4です。これは、概要版の1ページの目標1, 2、それから2ページの方針1, 2, 3, 4を見ていただくと、基本的には同じとなっています。

(車谷委員長)

枠組みも文言も変えないということですか。

(事務局)

枠組みは変えず、文言についてはご議論の中で変えていきたいと思っていますが、担当課としての基本方針としては、第2期を充実させていくべきと考えていますので、この目標、この方針はまだ終わっていないという認識です。

(賛楽委員)

前2期の表を見ていただくと、非常にわかりにくいのですが、方針1と方針3が循環を負うという設計にしていて、それをつなぐのが方針2「人と文化、ひとと人をつなぐ人材づくり」という設計になっていました。しかし、今回の新しい計画では、方針が一列に並んでいます。第2期の意図としては、方針1, 2, 3が循環するから、方針4で魅力が発信されるという設計だったことは伝えておきたいと思います。

(車谷委員長)

そこについては、この図には今は現れていませんが、そのような内容も含めて踏襲することですか。

(事務局)

おっしゃる通りです。概要版の図を、そのままここに持ってくることができなかっただけです。

(車谷委員長)

この循環するという言葉ですが、先ほどの皆さんのご意見と、これからの方針を考えた時に、さらに循環させていく必要があるということですか。

(寶楽委員)

はい。もちろん公だけが文化行政を実施する時代ではないと思っていますので、そういう意味で少し前の言葉で言うと市民協働と言いますか、協働的な発想で循環していくべきだと思いますし、今日もプレイヤーのつながりがないという意見もありましたので、循環させていく必要があると思います。

(車谷委員長)

他にはいかがですか。

(宮崎委員)

完全に達成できたと言えるものではなくて、これを継続してつくり上げていかなければいけないので、ここから大きく変える必要はないとは思っています。ただ、方針の下にぶら下がっている細かいところは、見直しても良いと思います。大枠としては、このままで良いと思います。

(寶楽委員)

もう1つ提案ですが、方針というのは課題があるから方針が生まれるのだと思っています。

そういう意味で、前段の課題はこれでいいのかという議論をする場は持ってほしいと思います。27ページからの「河内長野市の文化に関する課題」に、課題が1, 2, 3, 4と出てきていますが、計画のロジックモデルなどをもしつくるとしたら、この課題1, 2, 3, 4と方針1, 2, 3, 4は全然連動していないので、ロジックのつながりがぼやけるのではないかと思いました。課題の検証が必要ではないかと心配なのは、例えば27ページで今回無関心層を捉えているのですが、無関心層にフォーカスした方がいいのだろうかというところなどは心配です。80年代90年代の文化行政のあり方と、2020年代の文化行政はきっと違うはずで、そういう意味で議論をする時間がほしいと思いました。

(車谷委員長)

課題について、もう少し議論を深めていきたいというご提案でしたが、確かに10年間やつてきて、さらにこれから10年間を考える時、これが本当に今求められている課題なのかというの、議論が必要かもしれません。それについて、お考えを出していただきたいと思います。

(宮地委員)

総論的な話ばかりになってしまいがちなので、少し突っ込んだ話をしていただけた方が、特にこの課題というのは重要なと思いますので、議論はした方が良いと思います。

(車谷委員長)

他にはいかがですか。

(おぐし委員)

少しずれるかもしれません、10年前に「人の循環を深め、心豊かになる環境づくり」をしようということで、いろいろ活動している人をつないでいこうという方針があったのに、今回の話でもできていないということでした。点としては上がってきてるけど、その循環まではできなかつたということですね。

(車谷委員長)

一部うまくいった循環もあれば、何らかの情報の流れが詰まっていた課題もあるということです。

(おぐし委員)

そしたら、どこが良かった、良くなかったかもう少し議論を深めた方が良いと思います。河内長野をいろいろ見ていくと、村がたくさんあって、集落ごとに文化が違って、お祭りな

どもそれぞれの地域がやっていて、横のつながりがないので、そのようなことも理由にあるのかなと思います。

(車谷委員長)

この件について、事務局からお願いします。

(事務局)

昨年度までの話の流れでは、ウェブでやり取りをしましょうかということだったかと思います。昨年度の議論の中で、何かしらの掲示板を立ち上げましょうという結論が出てきたので、リクリッドを立ててみましたが、なかなか書いていただく状況にはならないと私の感覚ですが思いました。そうなると2つの選択肢があって、1つはどこかで場を持つということ、もう1つは掲示板ではなくて全員でメールアドレスを共有することで、ある程度やり取りができるのではないかと思います。メールアドレスを共有しても差し支えなければ、全員CCで送るか、メールリストをつくるか、そのような形で意見を言い合えるのではと思います。

(車谷委員長)

改めて日程を合わせて集まるのはなかなか難しいので、今のような提案をしていただきましたが、それに対していくかがですか。

(事務局)

それで良ければ、例えば私の方から「今週は課題1についてお話を聞きます」みたいに、話題提供をさせていただきながら何週間かかけて進めていけば、意見を書きやすいのではと思いますがいかがですか。

(車谷委員長)

そのような形で、継続的に課題に対する思いを投げていくという形でよろしいですか。

(寶楽委員)

メールでもいいのですが、対話から生まれる課題もあるのではないかと思うので、課題について話し合いたい人がお金も出ないけどスピンオフで集まりたいとなれば、それでやったらいいかとも思います。

(車谷委員長)

状況によって場を設けるということですね。

(宮崎委員)

それか、事務局の方でフォーマットをつくってもらって、そこにそれぞれが意見を書いて、それを一旦集約してもらって、集約したものを共有してもらって、そこからポイントを絞って話すのか、それともメールで審議を続行するのか、そのような形はどうですか。

(車谷委員長)

事務局はそのような形は可能ですか。

(事務局)

はい、可能です。

(車谷委員長)

それでは、そのような形で進めて、必要であれば場を設けるということで進めたいと思います。骨子案については、第2期を踏襲していくということですが、中にある課題については改めて見直しをしたいということで、それによってもしかしたら変わる可能性も出てくるということで、今の段階ではこの方向性でいきましょう。

本日の案件は終了したいと思います。事務局から何か連絡事項はありますか。

その他

(事務局)

メインビジュアルについての説明

河内長野市についてのイメージ調査の協力依頼について

次回日程調整について

(賀楽委員)

河内長野市は機構改革をなさいましたが、かつて人口が14万人ぐらいだった時は、すごく元気な先輩プレイヤーがたくさんいて、男女共同参画、生涯学習、青少年健全育成など、あらゆる分野の会議体があって、さまざまな方針が生まれ、そこで新しい文化がつくられてきたと思いますが、人口が10万人を切ってプレイヤーの顔もだんだん欠けてくる状況の中で、本当に文化だけを扱う計画でいいのだろうかというの、組織で議論したのかなと思います。特に局制みたいなものを取り入れた中で、その局の中でこの文化をどう位置付けるのかというのが、もう少し河内長野市の方針をきちんと具体的に話してほしいと思っています。そうでないと、市民側とか民間が見えている意見でつくられる振興計画かもしれません、結局また10年後に同じことを議論していそうな気がします。12月の会議までには、市長がどうしたいのか思いを文章でほしいです。

(車谷委員長)

総合計画の骨子も出されていましたが、とてもおもしろかったですし、ずいぶん変わるのはないかという気もします。その影響はまた出てくるかもしれない、その情報提供もまたよろしくお願ひします。

(事務局)

12月までには、総合計画の中での文化の位置付けというものを、はっきりとお示ししたいと思います。冒頭でご挨拶させていただいたように、昨年までは教育委員会に文化振興の施策は位置付けられていました。4月から、成長戦略局という新しい局に変わって、市長の下で文化振興を進めることになっています。つまり昨年までは、松本教育長の下に小川部長がいて、文化課が担当になっていました。それが、現在は市長の下に成長戦略局という、まちの魅力を高めて、価値を向上していくことで、それがまちが稼ぐことにつながりますというような、成長戦略を考えようというところの中に、この中には例えばまちのデザインをしますとか、産業観光を振興しますみたいな部署がいくつかある中の1つとして、実はこの文化・スポーツ活性課も、文化課から文化・スポーツを活性化するという名のもとに位置付けられて、現在は7階から4階に変わって、この業務をやらせてもらっているという状況で、今寶樂事務局長がその考え方について、説明していないですよねと言われるのは、おっしゃる通りです。そこは、近々テキストとしてご説明させていただきたいですし、それは市長の思いが強く反映されているというところです。文化振興はまちの成長につながると市長が思っているのは、間違いないです。